



第150回

# 華人研セミナー

9月3日(土)

開催時間 午前10時～12時

## 国家安全優先下のマカオ



話題提供者

塩出浩和氏 (しおで ひろかず)

城西国際大学 准教授

概要：

香港に於ける2014年の雨傘運動から2020年の「香港維護国家安全法」制定までの6年間は、この特別行政区において民主化運動と警察が激突し、次第に警察側が有利になるプロセスであった。

この間、マカオにおいては激しい民主化運動や反体制運動は起きていない。その背景として、国家安全法制を香港よりも早い2009年に既に制定していたこと、もともとマカオの民主派勢力が弱かったこと、そして香港よりも経済状況が良好だったことなどが挙げられる。さらに、歴史的な経緯も「マカオの安定」に貢献している。

4世紀半にわたりポルトガル人が居住してきたマカオは中国との付き合い方を心得ている。わずかに1世紀半の経験しかない香港よりも中国に「馴化」している。

一方で、国家安全を理由とする様々な制約もマカオで出現している。2021年9月の立法会選挙では複数の民主派現職議員の立候補資格が取り消された。また、最近のいくつかの立法では、国家安全を理由とするさまざまな条項が付加されている。それらの立法には、カジノ関係法・中国伝統医学関係法・通信記録提供法などが含まれる。

従来、「比較的自由で開かれた社会を保ちつつカジノ中心経済も維持する」という「ハンドリングが難しい狭い道」をマカオは歩むことができるのだろうか。

略歴：

1960年 横浜市生まれ

1982年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

1982-83年 香港中文大学社会科学院留学

1985-89年 Center for the Progress of Peoples 研究員

1986-87年 同クアラルンプール所長

1990年 国際大学アジア発展研究所研究員

2000年 城西国際大学語学教育センター専任講師

現在 同准教授

中央大学経済学部・同大学院総合政策研究科非常勤講師

専攻 中国近代史・華南社会・マカオ

主要業績：

『可能性としてのマカオ』亜東書店、1999年。

『香港における戦勝と解放』『資料で読む世界の8月15日』

『戦後香港における憲政改革と香港社会 -1947年から48年-』

『変容する華南と華人ネットワークの現在』風響者、2014年。

2011年から『東亜』に「マカオは今」を隔月連載中。ほか

- 会場 大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル6階）第2研修室  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5・6階  
【TEL】06-6345-5000(代表)
- 定員 40名（先着順で受け付けます。満員になり次第締め切ります。）
- 申し込み メール連絡のみ 事務局メールアドレスまでご連絡ください。  
sec@kajinken.jp
- 参加費 2000円（セミナー後の飲食は有りません。）

